

湖西市津波防災地域づくり推進計画

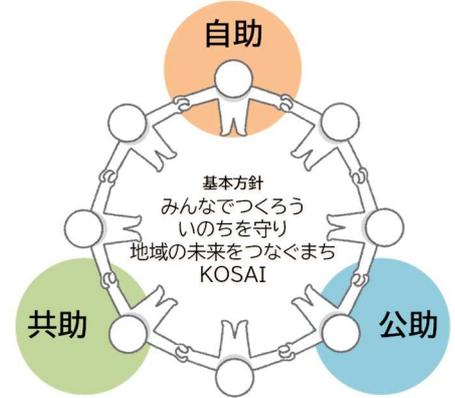
～Q&A 概要版～

基本方針：**みんなでつくろう** いのちを守り 地域の未来をつなぐまち KOSAI

基本方針にある「みんな」とは、行政だけでなく、湖西に住む私たち一人ひとりのことです。

南海トラフ地震から命を守るには、「誰かがやってくれる」と思うのではなく、みんなで力を合わせることが大切。早めに逃げる、声をかけ合う、ふだんから少しずつ備える。こうした一人ひとりの行動や対策の積み重ねが、自分の命を守り、大切な人を守り、湖西のまちの未来をつないでいきます。

この計画は、私たちみんなでつくり、動かしていくもの。そんな想いを込めて、この基本方針を設定しました。



Q

湖西市津波防災地域づくり推進計画とは
どんな計画？

A

今後 30 年以内に 60%～90%程度以上の確率で発生すると予想される南海トラフ地震によって、最大クラスの津波が起こる可能性があるよ。その津波から市民の生命や財産を守るために、津波に強いまちをつくるための計画だよ。

【解説】

推進計画第1版は、計画の作成状況等を協議会に提示しながら検討を進めました。また、地域住民を対象としたワークショップ形式の意見交換会や沿岸域（新居・白須賀地区）説明会などでお聞きした市民の意見を反映して、令和6年3月に策定しました。

その後、令和6年度から7年度にかけて「防潮堤整備」と「防潮堤の代替となる施策」について総合的な視点による比較検討を重ねました。その結果、最大クラスの津波に対する防潮堤は整備せず、「事前の避難支援、早期復旧・復興支援事業」を推進することとし、令和8年〇月に第2版を策定しました。

Q

レベル1津波とレベル2津波の違いは何？
湖西市の沿岸部にレベル1津波に対する防潮堤があるの？

A

「レベル1津波」は比較的良好よく起こる津波で、「レベル2津波」はあまり起こらないけれど、もし起こると大きな被害が予想される最大クラスの津波のことだよ。湖西市で想定される「レベル1津波」は7m、「レベル2津波」は15mで、沿岸部には8mの防潮堤がすでに造られているから、レベル1津波は防ぐことができるよ。

【解説】

平成23年3月に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を受け、国は同年9月に新たな津波対策の考え方として、2つのレベルの津波を想定する必要があることを示しました。

レベル1津波：防潮堤などの海岸保全施設の整備を中心にハード対策を行った上で想定する「比較的頻度の高い津波」（数十年から数百年に1回程度）

レベル2津波：ハード対策だけでなく避難施設や土地利用などのソフト対策を組み合わせた多重防御により、津波被害を減らすことを目標とし、人命を守ることを最優先とした上で想定する「最大クラスの津波」（数百年から千年に1回程度）

**Q****最大クラスのレベル 2 津波に対する防潮堤は
どうして整備しないの？****A**

レベル 2 津波に対する防潮堤整備にどれくらいのお金や時間がかかるのか、また他にもっと良い対策がないか検討したよ。その結果、30 年以内にいつ起きてもおかしくない南海トラフ地震から市民の生命を守るために、防潮堤に代わる対策を採用したんだ。

【 解説 】

防潮堤整備については、「整備に係る費用や完成までの長い整備期間」、「整備位置による関係法令上の制約」、「環境や生活への影響」など、さまざまな課題がありました。

このため、令和 7 年度中に整備の方向性について結論を出すことを目指し、防潮堤整備と防潮堤の代替となる施策について、概算事業費、国・県の補助制度、事業期間、年間事業費、施策効果（死者数・精神的負担量・財産損失の軽減）及び施策を実施する上での課題などを比較し、検討を行いました。

その結果、今後 30 年以内に南海トラフ地震の発生が切迫している状況を踏まえ、最も早期に効果が発揮され、かつその効果を確実に積み上げることができる「事前の避難支援、早期復旧・復興支援事業」を推進することとしました。

**Q****レベル 2 津波に対する防潮堤の代わりに
どんな対策を行うの？****A**

津波から確実に避難ができるように、高台や避難場所につながる避難路の安全を確保したり、効果的な避難訓練を行ったり、地区防災計画を作ったりするよ。また、被害を受けたまちを早く復旧・復興できるように、道路や橋の耐震化や事前に復興計画を立てることも進めるよ。

【 解説 】

防潮堤の代替となる施策として実施する「事前の避難支援、早期復旧・復興支援事業」を推進するため、推進計画第 1 版に位置づける事業・事務の強化・充実を図ります。

また、ハード事業だけでなく、早期に取り掛かることができるソフト事業の充実も進め、複数の事業を複合的に実施することで、各事業の相乗効果を得ることを目指します。



対策例：避難所（学校体育館等）における空調整備

**Q****私たち市民がやらなくちゃいけない対策や
できる対策はあるの？****A**

防潮堤の代わりになる対策には、市民の皆さんが自分たちでできることがたくさんあるよ。避難訓練に積極的に参加したり、飲料水や食料を備蓄したり、非常持ち出し袋を用意することが大切で、いざというときに「自分の命は自分で守れる」ようにしておこう！

【 解説 】**①自宅の安全化で、命を守る第一歩を！**

大地震では、建物の倒壊や家具の転倒が命を奪う大きな原因となります。まずは「自宅で安全に生き残る」ための備えから始めましょう。市では昭和 56 年以前の木造住宅の耐震化支援や、家具固定、防災ベッド・耐震シェルター、感震ブレーカー設置への補助を行っています。

②津波から、ためらわずに逃げるために

津波は待ってくれません。実際に歩いて確認することで、いざという時に迷わず避難することができます。命を守る行動は、日頃の訓練で確認し、近隣で避難支援が必要な方を把握しておきましょう。

③避難後の生活を支える備えとつながり

避難生活は長期化することもあります。1 週間分以上の備蓄や、地震保険への加入などが生活再建を支えます。日頃から備えておきましょう。